

令和 7 年 (2025) 1 月 6 日 (月)

[理事長挨拶をそのまま複製]

(文責：総務部長畠中)

令和 7 年 川井田 浩 理事長 年頭挨拶

新年おめでとうございます。今年は皆さんが元気に、そして健康で業務に励めるように祈念して年頭に当たってのご挨拶を致したいと思います。

今年の総合目標

挨拶や笑顔をなくして 組織なし

学びや 教えなくして 組織なし

自信をつくらずして 人生なし

人の役に立たずして 人生なし

これを総合目標として皆さん努力をして下さい。

「青雲会の目的・理念は、「何か世の為 人の為」であり、

そのため救急医療を行い、老健施設を運営しています。」

救急医療をするのは、そこに苦しんでいる人を「何としてでも良くしたい」「助けてあげたい」という思いです。

そして、老健施設は、外来診療の中で、“老々介護の家庭”や“独居の高齢者”が急速に増加していることを実感していたので、その人たちが安心して残りの人生を全うできるようにという目的で設立しました。

その手段として組織を社会医療法人化したわけで、「最期は青雲会病院で」という目標を掲げています。

「この組織を円滑に運営するためには個々人が多くを学びお互いに教え合う雰囲気ではなければならない。そのためには挨拶や笑顔が必要である。「お早うございます」という朝の挨拶もできないのは、組織人としては失格である。」

「不機嫌でいると誰も声をかけてくれない。誰も教えてくれない。」

「メメント ホモ」という言葉あります。これはイタリア語です。「汝 ただの人間であることを忘れるな」という意味です。

「何かを学ぶときには、実際にそれを行う事によって学ぶわけで、訓練と習慣が必要であり、一朝一夕にはできない。成熟するには時間がかかるのだ。」

いろんなことを学び実践するには 時間がかかります。すぐできなかったからといってへこむこともない。めげず怯まずへこたれずの精神で是非いろんなことを学んで、それを実践していただきたい。

「今ここに生きている人は いつかは皆いなくなる。大切なのは よく生きることであり 長く生きることではない。今この瞬間を大切に生きるためには 自信が必要であり、自信は「自分のできる事は何でもやった」という事を知っているから生まれるのだ。」

自信というのは自分で作らないと自信は出てきません。何でもいから「一生懸命やるんだ」という気持ちで、「あれをやった、これをやった」で自信が湧いてきます。是非、自信は自分で作るものだということを肝に銘じて、しっかり業務を遂行していただきたい。

「必死に努力を続ければ、運もついてくる。悪い事が起こるたびに心が萎える様では 運はついてこない。」

「人生最大の美德は “人の役に立つこと”」

これはアリストテレスの言葉ですが、やはり 人の役に立たないような仕事をして何もなりません。人の役に立ってこそ人生だという思いを、是非皆さん、これからも抱いていただきたい。

今年も人の役に立っている事を実感しながら 業務に専念しましょう。

本年もよろしくお願いします。

以上